

令和6年度第1回和泉市こどもまんなか会議 当日意見等について

資料2

部長挨拶

子どもに対する一体的な相談支援体制を構築するために、今年の4月に和泉市こどもまんなかセンターを設置した。これは、母子保健を管轄する健康づくり推進室と、児童福祉を管轄する子育て支援室の2室が連携して取り組んでいる。

また、支援を必要とする児童への適切な対応の検討、支援体制の構築を図るため、学校現場に児童精神科医を派遣している。

また、学校現場と福祉部局を繋ぐ、社会福祉士の配置などを行い、教育と福祉の連携をより一層強化し、必要な支援策の早期提供、重症化を防ぐための体制整備にも取り組んでいる。

本日の会議では、こども計画の大きな柱となる、計画の重点項目とワークショップについてご審議をいただく。特にワークショップは、この計画で重視されている、こども・若者の多様な人格個性の尊重、そしてこども・若者の社会参加と意見の反映などに関する事項となる。忌憚のないご意見、並びに活発なご審議をお願いする

委員等意見・質問等

当日回答

備考

案件①(報告)前回会議(令和5年度第2回こどもまんなか会議)当日の意見等について : 質疑なし

案件②(報告)和泉市こども・子育て支援に関するニーズ調査(速報)および子どもの生活実態調査について

1	(会長) 資料3-2は「速報」とあるが、詳細なまとめは今後あるということか。	(当日回答) クロス集計などを行って、まとめたものを次回提出する。	(進捗等) 本会議(参考資料4)として提出。
2	(岡田委員) ひとり親や多子世帯など、今後、世帯人数によってクロス集計して、何か分析する予定があるか。 就学前と小学生の保護者に同じ項目を聞いているところで、違いがあるのか 資料3-3について。教育の格差で貧困状況に陥っている時間・期間が長ければ長いほど、こどもに与える影響というのは大きくなるので、元に戻す時間をもっとかかる。支援のあり方を考える時には、	(当日回答) ひとり親家庭やハイリスク児などでクロス集計を行っていきたい。 大きな差はないとみている。	(進捗等) 計画策定の中で継続検討

	お考えいただきたい。 ヤングケアラーのこどもたちが「自分に自信がある」とか「はっきり相手に伝えることができる」というポジティブなイメージが読み取れるが、もしくは頑張りすぎている、成熟しすぎているという解釈にはならないのかというようにお考えか。 本人の意思でなっている訳ではなく、結果的にこういうパーソナリティが育まれたので、実際の支援のあり方を考える時にはそういうことを引き出して、強みとして引き出さないといけないのでは。	ヤングケアラーのマイナスの部分だけを捉えるのではなく、プラスの面も捉える必要があるのではとピックアップした。家でのお手伝いができている子たちについては、このようなプラスな結果も出てくるのではという解釈。	
3	(安原副会長) 大学生で、ヤングケアラーに位置づけられる人で、しっかりしている人がいる。その家族関係の中でそう育たざるを得なかった、早く大人になりすぎている。 どこかで何かに躓いて自分を振り返った時に、メンタル的にしんどい部分が実はあったということで、しんどくなることもある。高校生、大学生の頃にその辺りと向き合うということもあるので、ヤングケアラーに関しては「18歳以上」でも支援の枠に入れてもらえたら。 調査は、回収率は100%ではないと考えると、和泉市の相対的貧困率と、この結果で出てきた数字と一緒になのか。家庭に余裕がなければ、調査に答える余裕もないこともあるので、課題を抱えている家庭で出していない人たちが、かなりの数あると思う。この結果だけで支援策を考えていくのではなく、その背後にもっと課題を抱えている家庭がいるということも含めて、支援策や計画は、立てていただきたい。		(進捗等) 計画策定の中で継続検討
案件③第2期和泉市こども・子育て応援プランの進捗状況について：質疑なし			

案件④和泉市こども計画の重点項目等について:質疑なし

案件⑤ワークショップについて

4	(会長) 保育園の年長児はもう実施する園は調整しているのか。幼稚園が入ってないのはなぜか。	(当日回答) まずは、実施しやすいところから始めていくというところで、公立の保育園と調整をさせていただいている。	(その後の進捗等) 本会議案件②で報告
5	(安原副会長) 桃山学院大学も和泉市にあるので、大学の地域貢献という部分で、地域向けの行事の中で「こどもを集めてもいい」枠がもしできたら、ワークショップとか、何か協力させてもらえたら、学生も動員できる。	(当日回答) 今は既存の場を有効活用していく視点で考えているが、他にも、いろんなこどもたちの意見が聞ける場を作っていきたいと思っているので、何か一緒にさせていただくことがあればお願いしたい。	(その後の進捗等) 本会議案件②で報告
6	(岡田委員) 最後の地域共生ワーキングだが、和泉市地域福祉活動計画をお持ちなので、既存の仕組みを活用されて動かすということは非常にいいこと。重層型支援という形で、セクショナリズム、法律・条例にとられないところの対象者、利用者支援を考えないといけないので、ワーキングをされるのであれば、そういうことも含めてされたい。		(その後の進捗等) 本会議案件②で報告
7	(会長) 意見を聞く方法が非常に大事だと思っている。保育園の園児の意見をどのように聞くのか、学童の保育のこどもたちにどのような形で聞くのかという、聞き方によって変わってくると思う。そのあたりのことについては、何か考えがあるのか。	(当日回答) 保育園のこどもたちについては、日頃の保育の中で担任の先生方に聞いていただくのが一番いいと考えてる。普段からこどもの意見を聞きながら保育をしているとお聞きしているので、普段から関わる方も入っていた	(その後の進捗等) 本会議案件②で報告

		だきながら意見を聞いていく。 内容としてはこどもの「楽しかったこと」や「もっとこういうことがあればいいな」というところをテーマに設定していけたらと園と調整していく予定。	
案件⑥その他:スケジュールについて確認:質疑なし			
事務局への要望			
8	(会長) 時間の関係上意見が言えなかった、遠慮して言えなかったというような方はおられるかもしれない。そういう方は、前回のように事務局に意見が言えたらいいのでは。	(当日回答) それぞれの案件に追加のご意見、ご質問を書面にてご照会させていただきたい。大体2週間ぐらいの期間を設定して、書面で返していただく。	(進捗等) 質問と市の回答を取りまとめ、全委員に送付済み。
12	(会長) 次回の会議に向けてだが、説明をもう少しコンパクトにしてほしい。もし、どうしても説明に時間がかかるということであれば、2時間とするなど、時間配分とか、タイムスケジュール的なことも考えてほしい。	(当日回答) 開催通知の段階で、時間設定なども詳しくお知らせした上で、それを厳密に遂行するように行っていきたい。	(進捗等)

副市長挨拶

本当にお忙しい中、今日も慎重審議に感謝する。 まず1つ目は計画作りの思想。理念を形にすることの大切さ。計画は考え方、方向性だけにとどまらず、それをどういう仕組みで実現するのかということが必要。 具体例では、資料2「当日意見等について」で、岡田委員から前回「こどもの意見を吸い上げるという理念を実現する仕組みが必要である」というご指摘をいただいた。仕組みまで作り上げるというのが計画策定であるという、思想で作り上げていきたい。 2つ目は、きめの細かい計画作り。資料2にある通り、原田委員から前回「高校の意見はどうするのか」とい	(進捗等) 計画策定の中で継続検討
--	---------------------------------

う趣旨のご質問があった。高校だけではなく、就学前とか、私立の小学生、中学生、それから中卒のこども、また概ね18歳から39歳も「こども」という定義をするのだから、こういったこどもたちにも目を行き届かせた、きめの細かい計画を作り上げていかなければならない。

次に、集計と分析とは違うという課題。クロス集計した結果、このようになったというのは「集計」。それからどうということが考察されるのか、展望されるのかというのが、本来の意味での「分析」。こうした分析は、一般的な事業者では無理で、委員各位や、市職員でないと残念ながらできない。委員各位と相談しながら、市の行政でしっかりグリップしてやっていきたい。

最後に、市の行政の発表会のような会議運営になってしまった。本日の分は、アンケート等で徴収させていただくとして、次回以降はしっかり工夫をして、時間に収まるように、実りある議論をするようにしていきたい。工夫を講じるには、委員の皆様方からのご協力が必要と思うので、お願いを申し上げる。

令和6年度第1回こどもまんなか会議に関する委員意見等と回答

意見①

委員名:内藤委員
案件③:第2期和泉市こども・子育て応援プランの進捗状況について (P8 事業 No20「保育所、幼稚園、認定こども園小中学校の連携、接続強化」に関して) (委員意見等) 和泉市スタートカリキュラムに関しては非常に大切な取り組みが現在進められていると思います。 それを踏まえてですが「教職員の共有や交流」および「保育園等での取り組みを知ってもらおうと小学校教諭に半日保育参加」等の取り組みに関して、その具体的な内容と今後の方向性はどのようなものか教えていただければと思います。小中学校の取り組みは試験点数等でわりと視覚化されやすいものに比して、就学前教育保育は数値化がなじみにくく、つまり視覚化が困難な取り組みが多いことが言えます。 しかしながら、その視覚化が難しい乳幼児期に培われる成長や大人の関りは、これからの人格形成が大きく影響される非常に大切な取り組みでもあります。 学校教諭が保育園等に半日参加するような取り組みは引き続きお願いしたいと思いますが、これは学校に従事される多くの先生方が順次参加されるものでしょうか？ 視覚化されにくいゆえに、就学前に取り組んでいる活動(「あそび」や「生活」…)に関して一人でも多くの学校先生方が理解していただく仕組みや取り組みが必要だと思います。 そして就学前の教職員も小学生徒や、(就学前とは異なる)学校先生方の取り組みに関して、公私関わらず一人でも大勢の現場保育士等が知ることも必要だと思います。これらは現場には全く余裕がない中での取り組みになることは想像出来ますが、和泉市として生きた保幼小連携接続を目指すにあたり質問とご意見させていただきます。

スタートカリキュラム担当者会において、今年度は「保幼小」の先生と小学校の先生とが、情報共有と交流を行いました。

「それぞれの学びの場における子どもの姿を見ること」が大切と考え、「保幼小」の先生には「1年後の姿」として小学1年生の様子を聞いていただき、小学校の先生には「就学前にどんなことを学び、成長してきたのか」を知ることを目的として交流の場を設定しました。

なお、半日保育参加については、学校教諭が順次参加するものではなく、参加希望により実施しています。

希望を受けて園と日程調整し、夏休み期間の午前中に実施しており、受入れにあたっては、現時点では公立園を案内しています。

今後も半日保育参加により園等での取り組みを知っていただけるよう、また、校区ごとに秋祭り等の交流を通じて、さらに連携を深めていく予定です。

(こども未来室、学校教育室)

意見②

委員名:内藤委員
案件④:和泉市こども計画の重点項目について
こども大綱および大阪府子ども総合計画にかかる「和泉市こども計画」に関しては、市町村自治体は努力義務であるにも関わらず取り組んでいただきありがとうございます。
現在、私立幼稚園には2つの制度上で運営が行われている状況にありますが、「こどもまんなか社会」、そして重点項目1「こども権利」の観点から、そこに通う子ども達が施設や制度に違いなく施策や対応を進めていただきますようお願いいたします。

こども基本法とこども計画の理念の中核である、こどもの権利の尊重と子供をまんなかに据えた社会づくりをふまえて、計画策定を進めてまいります。

(子育て支援室)

意見③

委員名:大杉委員
案件⑤:ワークショップについて
子どもたちへの聴き取りは行う意義はあると思います。
子どもは守らなければならない存在である一方、一人の人間としての権利を持っています。
小さいから分からないであろう、小さいから判断できないであろうではなく何がしたいのか、何が嫌なのかということを経験での表現が難しいとしても子どもたちは沢山の意見を持っていると思います。
又、自分の思いを大人に十分に受け止められて嬉しいという体験が友達の気持ちを受けとめたい、友達に喜んでほしいという気持ちにつながればと思います。

こどもワークショップについては、幼児、小学生、中学生、高校生以上など、年齢各層を対象別にきめ細かく実施していく予定です。特に幼児につきましては、幼児が自然体で参加できるよう、通園している保育園で、日頃から関わっている保育士が聞き役となって実施するなど、幼児の意見を引き出し、その思いを受けとめられるよう配慮してまいります。

また、こども自身の生の声を聴き、計画をはじめ豊かな保育・養育の取組みに活かしていきたいと考えています。

(子育て支援室)

意見④

委員名:橋本委員

案件⑤:ワークショップについて

こども計画策定スケジュールのプリントに記載の通り、9月、10月のこどもまんなか会議にて各ワークショップの報告や結果についての議題があるかと思いますが、その際にせっかく大きなモニターもあるのでワークショップの様子を動画や写真等で見せていただけるとありがたいです。個人情報や時間の問題もあるかと思いますが、どのようにこどもたちの意見を引き出しているのか、その様子を見せていただけたらと思います。宜しくお願いいたします。

参加者の思いも尊重したうえで、こどもまんなか会議でのモニターの活用も行い、可能な限り、ワークショップの様子を正しくお伝えできるよう努めます。

(子育て支援室)